

熊本地震から5か月 震災被災地 支援派遣レポート



4月14日と4月16日に熊本地方で発生した地震は、ともに最大震度7を記録し、その後も長きにわたって、大きな揺れを伴う余震が続き、熊本地方に甚大な被害をもたらしました。須恵町では、震災被災地支援のため、5月から7月にかけて熊本県の益城町と菊陽町に6人の職員を派遣しました。この6人の職員が、被災地で見えてきたことや感じたことなどをレポートします。



住民課係長 安河内 高利

派遣期間 5月16日～18日
派遣先 益城町

被災から1か月後、益城町の中心にほど近い益城中央小学校の体育館に開設された避難所にて、衛生班としてノロウイルスなどの集団発生を抑制することを重点に置いた運営作業に従事しました。

1か月にわたる避難所生活で避難者、対応する行政職員双方に疲れが見られたものの、大規模な避難所ではなく、避難者同士が隣近所ということが良好な

コミュニケーションが形成され避難所生活を過ごされていいると感じられたのが印象的でした。

このような大規模災害の場合、行政の「公助」、避難者自身の「自助」だけでは直ぐには対応できない問題に対しても、力を発揮できる避難者同士の「共助・互助」が円滑に発揮されるような取り組みの重要性を改めて感じました。

都市整備課係長 舛本 直明

派遣期間 5月16日～18日
派遣先 益城町

私は益城町の避難所で、物資

の整理および配給、食事の配給活動などを行いました。被災地は日々状況が変化しており、避難所生活が長期化した避難者が必要とするものも変化するので対応の難しさを実感しました。

本町においても、いつ同様の災害が起こるかわかりません。その時、公助による支援体制も大事ですが、共助の大切さ、それは常日ごろからの近所付き合いなどの地域のコミュニケーションの形成が大切だと思います。その内容として、地域コミュニケーション単位で、防災としての助け合い体制を構築する、また、災害発

いようなコミュニケーションをされておられ、避難所の皆さんの表情は意外なほど明るいものでした。今回の被災地支援を通じ、行政においては熊本地震を教訓とした具体的な災害対策を検討することが必要であり、住民の皆さんにおかれては近所で孤立する人がいないような地域コミュニティづくりをすることが大切であると感じました。

住民課 主事 長谷川 遥香

派遣期間 7月26日
派遣先 益城町

益城町で「被災証明書」発行の予約・申請書の受付を手伝わせていただきました。

窓口に来られた人から、「アパートが住めない状態になり、実家に戻っているが、今後どこ

に住むのかまだ決まっていないう。益城町にはもう戻れないだろう」など、これから先の生活に対する不安の声が、ため息と共にこぼれていました。

須恵町が甚大な災害に見舞われた場合、町職員だけでは対応が難しくなるでしょう。このようにときに他の自治体やボランティアの支援をどう活かしていくかを、日ごろの業務の中で考えていかなければならないと、今回の派遣を通して強く感じました。

総務課 主事 黒瀬 朱里

派遣期間 7月26日
派遣先 益城町

益城町へ1日だけの派遣でし

たが、役場職員としてとても貴重な経験になりました。公民館を仮庁舎として行政業務が行われていたが、簡易的な張り紙、ふと横を見ると支援物資が無造作に置かれているなど余裕のない様子がすぐにわかりました。職員の人手が明らかに足りないのです。他県の派遣職員、役場OBの人々が基本的な業務を担っていました。支援活動を通じて、災害発生時の業務を想定し準備しておくことの重要性を実感しました。何が不足し、何が求められるのか、どんな業務が発生し、どのくらい人員がいるのか、私たちは何をやるのか。益城町では支援メニューを独自で作成し配布を行っていました。災害時の行政の役割について、職員一人ひとりが理解しておくことが大切だと思えます。

役場1階ロビーに 義援金箱を 設置しています



寄せられた義援金は、熊本県共同募金会を通じて、被災された人へ届けられます。義援金は現地に行かなくてもできるボランティアです。皆様のご協力をお願いいたします。

▶ 義援金受付期間
平成29年3月31日(金)まで
☎ 須恵町社会福祉協議会
☎ 933-2160

災害に備えましょう

8～10月にかけて、日本列島に接近・上陸する台風は、大雨や洪水、暴風などの被害をもたらします。特に、傾斜が急な山や川が多い地域では、台風や大雨によるがけ崩れや土石流、川の氾濫など人々の生命や生活を脅かす自然災害が発生しやすくなります。こうした自然災害は、いつどこで起こるかわかりません。いざという時に備えて、一人ひとりが日ごろから備えておくことが重要です。



非常持ち出し品・備蓄品チェックリスト

非常持ち出し品・備蓄品の準備は防災対策の基本です。リストを参考に、家族構成に合わせて準備し、両手が使えるリュックタイプの袋などにコンパクトにまとめておきましょう。また、食品の賞味期限や化学製品の故障がないかなど、定期的に中身をチェックしましょう。

非常持ち出し品	非常備蓄品
<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備の電池も忘れずに) <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 水(ペットボトル入りを持ち運びに便利) <input type="checkbox"/> 貴重品(現金、預金通帳、健康保険証、免許証など) <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備の電池も忘れずに) <input type="checkbox"/> 救急医療品・常備薬 <input type="checkbox"/> 生活用品(衣類、予備のメガネ、軍手、ライター、雨具、タオル、紙おむつなど)	災害後の救助や救援物資到着までの数日間に必要なものです。最低でも3日間分は準備しておきましょう。 <input type="checkbox"/> 非常食(そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの) <input type="checkbox"/> 生活用品(カセットコンロとガスボンベ、毛布、衣類、トイレットペーパー、ビニール袋など) <input type="checkbox"/> 水(飲料水と生活用水) <input type="checkbox"/> 工具類(スコップやバール、のこぎりなど救出活動に使えるもの)

生時に実際に助け合える実行性のある組織づくりが必要だと感じました。

上下水道課 主事
吉開 英
派遣期間 5月24日～25日
派遣先 菊陽町

熊本県菊陽町で建物被害調査に従事しました。

調査した多くが瓦屋根や土壁といった歴史ある家屋で、屋根全体が歪んでいる家や、壁に大きなヒビが入っているなどの被災状況でした。須恵町も歴史ある家屋が多くあり、地震が起きたら同様の被害が考えられるのではないかと思います。

また、道路側の外壁が崩壊している被災場所を見て、須恵町にも道路の幅員が狭く、両側が外壁に囲まれている地域があり、震災時に外壁が倒れ、避難



経路が寸断されるのではないかと考えました。

2日間の支援活動を通して、行政職員としてより細かい危険場所の把握や、避難経路の確認、確保などの危機管理の重要性を改めて感じました。

上下水道課 係長
百田 儀幸
派遣期間 6月1日～3日
派遣先 益城町

派遣先の益城中央小学校は200人ほど避難されており、私は避難所での清掃や支援物資の搬入などの業務を行いました。避難所は吉村さんという女性リーダーを中心に自主運営されていました。吉村さんは、阪神大震災後に地元で防災ボランティア組織を作られたそうので、避難所では避難者に積極的に声掛けを行い、孤立する人がいな